アカムカデに寄生している *Hoplorhynchus bourniensis* sp. nov. について

福井利人（福岡學藝大學・本校） (1951年10月3日受領)

アカムカデは福岡市防塁町に於て採集した。ムカデの寄生虫の研究に當り廣大教授，理博，尾崎佳正先生の御懇切なる御指導に對し深く感謝している。

觀察 各種の染色劑を用いて觀察した。中性赤による生體染色は最も有効であつた。

先節は長圓筒形，黄色である。その先端は平圓盤狀でその周圍には7本乃至8本の多少後方に彎曲した鈎を有す。先節の後部の周圍には，不規則形，指狀の小さい突起を數箇有す。先節は，その先端の鈎のある部分から，後方の不規則形指狀突起のところまで，宿主の腸管内壁の組織中に埋沒している。成熟したセフアロントに於ては，先節は容易に前節から離れる。

Figure 1

Right (右) ——Matured cephalont.（成熟したセフアロント）Left (左) ——Young cephalont.（若いセフアロント）H——Recurved hook.（彎曲した鈎）E——Epimerite.（先節）F——Finger-like process.（指狀突起）S——Septum.（隔壁）P——Protomerite.（前節）N——Nucleus.（核）K——Karyosome.（仁）D——Deutomerite.（後節）CP——Cylindrical portion of protomerite.（前節の圓筒形部）DP——Dilated portion of protomerite.（前節の膨大部）

前節は若いセフアロントでは，比較的短く稍々圓筒形，黄色であるが成熟せるセフアロントに於ては，前節の前方は透明，且つ著しく細長い圓筒狀となり（圓筒形部），前節の後方は黄褐色，球狀で非常に膨大している（膨大部）。

後節は黄褐色，細長い圓筒狀で，その後端は次第に細く尖つている。前節膨大部及び後節の外質は厚い。エピサイトには縦線なし。前節と後節との間の隔壁は明瞭である。

核は楕圓形にして，一般に後節の前方に存在している。核中には多くの顆粒を有す。仁は球形にして常に一箇あり。シストは白色球形である。

測定 成熟せるセフアロントに於て先節の長さ67μ，幅28μ（莖部）。前節の圓筒形部の長さ125μ，幅29μ。前節の膨大部の長さ133μ，幅108μ。後節の長さ550μ，幅117μ。セフアロントの全長は875μである。核の長徑は48μ，短徑は32μ。仁の直徑は6μである。シストの直徑は280μである。

比率 先節の長さ對セフアロントの全長は1對13.0。前節の長さ對セフアロントの全長は1對3.3。前節の長さ對スポロントの全長は1對3.1。前節の長さ對後節の長さは1對2.1。前節膨大部の幅對後節の幅は1對1.0。前節圓筒形部の幅對前節膨大部の幅は1對3.7である。

寄生狀態 アカムカデの消化管の後方に非常に稀に寄生している。

分類上の位置 Cephalina DELAGE 1896 に於てムカデ類に寄生しているグレガリナは4科に亘つている。本種は一般に先節が複雜且つ相稱的であるから4科中の Actinocephalidae LEGER 1892 に屬す。Actino-

cephalidae 科中には 21 屬あるが，本種は楕圓形の核を有する點及び先節が長圓筒形で，その先端は平圓盤狀となつている點，及び平圓盤の周圍に 7 本乃至 8 本の多少後方に彎曲した鈎を有する點より考え，前記 21 屬中の *Hoplorhynchus* CARUS, 1863 に屬す。*Hoplorhynchus* 屬には現在次の 4 種が知られている。4 種の種名及び特徴は次の如し。

(1) *H. oligacanthus* (VON SIEBOLD, 1839) SCHNEIDER, 1875 先節は細長い圓筒形の柄を有し，その先端には 6 本乃至 8 本の彎曲した鈎を有す。楕圓形の核には多くの仁を有す。

(2) *H. actinotus* (LEIDY, 1889) CRAWLEY, 1903 先節は花瓶狀にして，その基底は廣く，且つ上端は平圓盤狀でその周圍に 8 本乃至 20 本の短い指狀の突起を有す。

(3) *H. scolopendras* CRAWLEY, 1903. *H. actinotus* によく似ている。エピサイトには非常に明瞭な縱線がある。

(4) *H. ozakii* HUKUI, 1951. セフアロントの成長に伴い，先節の先端は平圓盤狀となり，その周圍に相稱的に，最初 4 箇，次に 8 箇，次に 16 箇の二叉式に分岐した指狀の突起を有す。シストは球形である。スポロブラストは兩圓錐形で，中に 8 つの細長いスポロゾイトを生ず。

然るに本種は次の如き 4 つの特徴を有す。即ち (1) 先節の後部には本種特有の不規則形指狀突起を常に數箇有す。(2) 先節の先端には 7 本乃至 8 本の多少後方に彎曲した鈎を有す。(3) 楕圓形の核には 1 箇の仁を有す。(4) エピサイトには縱線なし。本種は以上の如き明瞭な 4 つの特徴を持つていて，既知種の何れとも異るので *Hoplorhynchus bouruiensis* sp nov として發表する。

文 献 LEGER et DUBOSCQ '06 Arch. f. Protis. 17. WATSON 16' Illinois Biol. Mono. KAMM, M. W. '22 Trans. Amer. Micro. Soc. 41. KAMM, M. W. '22 Illinois Biol. Mono. PINTO, C. D. M. '22 Mem. Inst. Oswaldo Cruz. Rio de Janeiro. 15. CALKINS '26 Biology of the Protozoa. DOFLEIN, F. u. E. REICHENOW '29 Lehrbuch der Protozoenkunde. CHAKRAVARTY, M. '38 Arch. f. Protis. 90. CHAKRAVARTY, M., '39 Arch. f. Protis. 92. HUKUI. T. '39 Jour. of Sci. of Hirosima Univ. HUKUI, T. '51 Zool. Magaz. Tokyo. 60,

Résumé

On a Gregarine, *Hoploryнchus bouruiensis* sp. nov. from *Otocryptops rubiginosus* KOCH.

TOSITO HUKUI (Hukuoka-Gakugei Univrsity)

Diagnosis of *Hoplorhynchus bouruiensis* sp. nov.

Measurements: Length epimerite, 67μ. Width epimerite, 28μ (stalk). Length cylindrical portion of Protomerite, 125μ. Width cylindrical portion of protomerite, 29μ. Length dilated portion of protomerite, 133μ. Width dilated portion of protomerite, 108μ. Length deutomerite, 550μ. Width deutomerite, 117μ. Total length of cephalont, 875μ. Nucleus, 48μ in long axis, 32μ in short axis. Karyosome, 6μ in diameter. Cyst, 280μ in diameter. Ratio: Length epimerite: Total length of cephalont :: 1:13.0. Length protomerite: Total length of cephalont:: 1:3.3. Length protomerite: Total length of sporont :: 1:3.1. Length protomerite: Length deutomerite :: 1:2.1. Width dilated portion of protomerite: width deutomerite :: 1: 1.0. Width cylindrical portion of protomerite: width dilated portion of protomerite:: 1: 3.7

Epimerite cylindrical, yellowish. Anterior flatteded disc of epimerite has 7–8 recurved hooks. Posterior part of epimerite has several, irregular-formed, finger-like processes. Epimerite detaches easily from protomerite. In the matured stage, anterior part of protomerite becomes elongate–

cylindrical (cylindrical portion), posterior part of protomerite becomes globular and dilated (dilated portion). Septum between protomerite and deutomerite, obvious. Deutomerite yellowish brown, elongate-cylindrical and ends in a narrowly rounded extremity. Without longitudinal striations of epicyte. Ellipsoidal nucleus contains a spherical karyosome. Cyst spherical. Host: *Otocryptopus rubiginosus* KOCH. Habitat: posterior part of intestine. Infection: Very rarely. Locality: Bourui-Mati, Hukuoka-Si, Hukoka Prefecture, Japan.

會　記 II

近畿支部第4回大會

昭和27年4月20日（日），京都大學理學部において開催（大會委員長石川衛）。9時より講演。12時より支部委員會をひらき，報告につづき，例會豫定（7月兵庫縣，11月大阪府），支部監査（吉川秀男，森爲三），庶務（小野喜三郎），會計（波部忠重）を決定。ひきつづき大會議事終了後，午後の講演にうつり，2時過ぎ終了。見學は修學院離宮。當日雨天であつたが出席會員49名，その他19名で盛會であつた。

當日の講演は：

1. 波部忠重：遺存貝類
2. 澤田勇：雞條虫と中間宿主との關係について
3. 津田松苗：溪流動物群集に於ける Lifeform spectrum
4. 深田祝：ヤマカガシの孵化の觀察
5. 高木俊藏：汗腺排出管の表皮通過分の構造
6. 野津敬一：システインの電流滴定について
7. 原富之：蛙における P^{32} の分布經過について
8. 本城市次郎：網膜における P の uptake について
9. 松谷幸司，*大澤濟，佃弘子，森主一，柳島靜江宮地傳三郎：ショウジョウバエの發育速度に對する硫酸銅培地の影響
10. 柳島靜江*，森主一，宮地傳三郎，大澤濟，佃弘子，松谷幸司：ショウジョウバエの集團適應
11. 大島長造：クロショウジョウバエの實驗集團における自然陶汰について

近畿支部第11回例會

昭和27年7月6日（日），神戸海洋氣象臺（例會委員長上野福三）にて開催。10時半より講演が行われ午後象氣臺内各部を見學，小憩後，棧橋につないである觀測船，"春風丸"を參觀した。出席者40名。

當日の講演は 1.上野福三：紀伊水道における動物プランクトンの分布と水塊について（豫報）

2. 奥田義雄：家兎體内における解毒作用の適應について
3. 生島仲茂："胚表の動き"の要因分析
4. 中村治*，田原胖：兩棲類における消化器の發生（第1報）
5. 朝山新一：イモリ性巣の分化に及す DOCA の作用

關東支部6月例會

昭和27年6月21日（第3土曜）13時30分より，東京大學理學部動物學教室講義室において，當番委員波磨忠雄君司會で，次の講演をおこない，來會者26名を數えた。會の前後に新着雜誌の供覽をおこなつた。

1. 出生直後に性ホルモン物質その他各種ステロイドで處理されたネズミの腦下垂體と卵巣との關係　高杉暹君（東大理動）
2. 有尾兩棲類における肢の場の構造
   碓井益雄君（東文理大動）

關東支部7月例會

昭和27年7月19日（第3土曜）13時30分より，東京大學理學部動物學教室講義室において，當番委員飯田俊武君司會で，次の講演をおこない，來會者29名を數えた。會の前後に新着雜誌の供覽をおこなつた。

1. 昆虫の變態・脱皮に關する組織化學的研究（I）カイコの前胸腺・アラタ體のフォスファターゼ
   °茅野春雄君（農技研）
   深谷昌次君（〃）
2. ホルモンの場と受胎
   加藤一男君（東大小石川分院）

關東支部9月例會

昭和27年9月20日（第3土曜日）13時30分より，東京大學理學部動物學教室において，當番委員岩佐正夫君司會で，次の講演をおこない，出席者35名であつた。會の前後に新着雜誌の供覽があつた。

1. メラニン形成に及ぼすプテリン誘導體と金屬イオンの影響
   井坂三郎君（千葉大生）
2. ハトの繁殖と換羽との關係
   小林英司君（東大理動）